

穂香タイムス<7月号>

6月17日から6月21日まで、国後島、色丹島、択捉島から65名の北方四島交流ファミリー訪問団（ルダコワ・リンマ・ピタリエブナ団長）が訪れ、根室管内の各地で交流を行いました。

二・ホ・ロにおいても、6月20日、池坊根室支部の皆様との協力ののもと、生け花体験を行いました。

皆さんがそれぞれ生けた花や、全員による寄せ生け作品は、二・ホ・ロを華やかに飾ってくれました。



北方四島交流センター

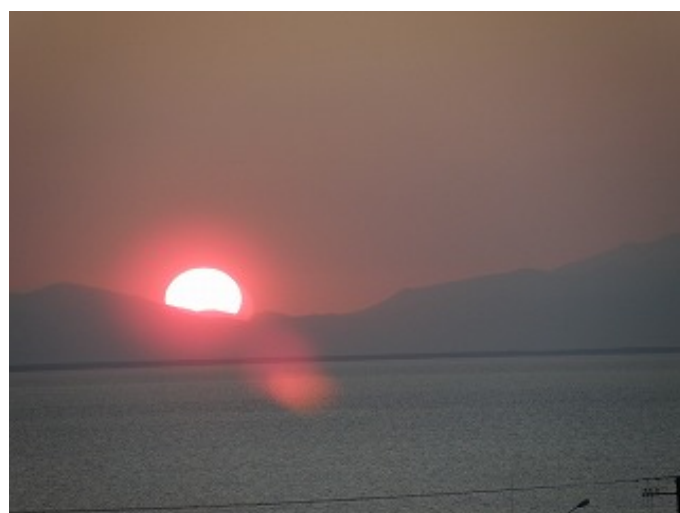
ニ・ホ・ロの最近の出来事

春から夏へ

ニ・ホ・ロの玄関前には、根室の夏の象徴であるヒオウギアヤメが咲き、アマツバメやショウドウツバメが上空を舞い、コヨシキリの声が響いています！

天気の良い日には知床方面にきれいな夕日が展望室から望めます。

ニ・ホ・ロは5月から10月まで毎日開館しています。



「第5回 日本最東端の豊かな水と大地の PHOTO CONTEST」

入賞者作品展開催中です（7月19日まで）



このコンテストは、根室管内の自然や大地の恵み溢れるこの地域を写真を通して全国に紹介するために行なわれています。撮影場所は四島を含む根室振興局管内となっており、国後島の子供たちの写真も紹介されています。

平成23年度 文化交流リーダー養成事業を実施しました。

6月25日、北方四島交流センター主催の文化交流リーダー養成事業「日ロ文化相互理解講座」を札幌大学外国語学部ロシア語学科准教授「飯田梅子」氏を招き開催しました。

「根室の日本人、四島のロシア人」と題した講演の中で、飯田先生の出身地である九州人から見た北方領土問題や長年務められたロシア語通訳の経験からビザなし交流の成果などについてふれるとともに、四島に住んでいるロシア人の気質や特徴などについても紹介されました。

講演の最後には、交流の建設的発展を願って、四島患者の根室受入れの継続・拡大や、医療専門家交流の拡大について、近年注目されている「メディカルツーリズム」を紹介しながら、その将来性や必要性を説明されました。また、読書好きなロシア人に向けた、情報発信の方法として、「元島民の講話のロシア語訳の出版」について、あまり感情的ではなく、事実を訴える形で、また、ロシア人の心に届くような翻訳で実施してはどうかとの提言がなされました。



「衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会」が来根

6月26日、衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会の委員12名が来根し、納沙布岬から視察されるとともに、その後、二・ホ・ロにおいて、元島民や行政機関の皆さんとの意見交換や懇談がおこなわれました。懇談会では、北方領土の早期一括返還や後継者育成の強化、外交の強力な推進やビザなし事業の推進などの意見要望が出され、終了後の記者会見では、北村委員長は、長谷川俊輔根室市長などの関係者を委員会招致する考え方を示したとの報道がなされています。



6月の北方青少年少女塾

根室管内の児童生徒に北方領土問題に対する正しい理解と認識をもってもらうために本年度も5月から実施している「北方青少年少女塾」。6月は、「上西春別中学校」「中春別中学校」「別海中学校」「標津小学校」の皆さんが参加してくれました。事前に質問をまとめて送ってくれる学校もあり、皆さんの熱心さが伝わってきます。



今年もアレセア湘南高等学校の皆さんが来館されました。

北隣協で実施する「北方領土を目で見る運動」修学旅行誘致で、平成17年度から毎年根室市を訪れている「アレセア湘南高等学校」の修学旅行生（61名）が、6月27日に根室市を訪れ、納沙布岬から実際に北方領土を視察しました。また、翌28日、二・ホ・ロにおいて、元島民（色丹島）の中田勇さんの講話を聞き、北方領土返還要求運動の変遷や、四島が日本の領土であるとの歴史的・法的根拠、元島民の想いなどについて熱心にメモを取りながら聞いていました。



※ この日は、北海道のテレビ局 STV の取材があり、当日の「どさんこワイド」で放送されましたが、インタビューに堂々と自分の考えを答える生徒たちが頼もしく思えました。

ロシア料理講座を開催しました。

7月3日、本年度第1回目の「ロシア料理講座」を開催し、21人の参加がありました。

今回は、根室西高等学校のロシア語指導助手である「ユーリヤ」先生を講師にお迎えし、「ボルシチ」「ポテトとキノコのフレシキ」「ヴィネグレート（サラダ）」をつくりました。ロシア語と日本語が飛び交う調理実習室は、NHKの取材カメラを意識しながらも、チームワークよく進められ、おいしいロシア料理を堪能しました。この講座は10月に第2回目の開催を予定しております。



展示物の紹介

【二・ホ・ロの中のロシア】

No.2

グジェリ陶器



グジェリ陶器は、モスクワから南東約80kmのグジェリ村で作られています。

ロシアを代表する陶磁器のひとつで、白地に藍色、少し丸みのある、素朴さと温もりを感じるロシアで最も親しまれている陶器と言われています。

二・ホ・ロには、ロシア文化ルームと、2階へのスロープにある展示ケースの中に紹介されているほかに、平成12年のピザなし北方四島訪問団からの寄贈品や二・ホ・ロ開館3周年を記念に根室西ロータリークラブから寄贈されたものが展示されています。

よく見ると、それぞれに味わいがあり、丁寧な花柄が印象的です。



**ニ・ホ・ロでは、7月15日～20日まで、
国後島、色丹島、択捉島から訪れる北方四島
交流訪問団（青少年）35名と、様々な交流
が行われます。**